



# 祝開校記念日 [7月8日]



宮城県村田高等学校

村田高校は、大正13年(1924)に村田実科高等女学校として開校しました。昭和23年(1948)、学制改革により村田高等学校(共学)として新たにスタートした歴史を振り返り、本校で学ぶ意義を改めて考え、自己実現を見据えた道筋を確認する日にしよう。【(町立)宮城県村田高等学校 開校日(1948.7.8)を記念日としています】

## 🏠 学制改革により「宮城県村田高等学校」設立 [働きながら学ぶ定時制高校(昼間部・夜間部)] 🎺

### ① 設立の経緯 教育基本法の具現化

昭和23年3月19日の村田町議会で町長より「個人的にも社会的にも必要なる教養を修得せしめるため新学制による町立(定時制)高等学校を設立し、昭和23年度より開校せんとする」議案が提出され、可決された。定時制高校の開設は、勤労青少年に対しても高校教育の機会均等を保障するという革新的な制度であったが、その実現は年度当初には間に合わず、宮城県では昭和23年7月1日から発足することになった。中心校36校(県立29、市町村立7)、独立校(村田高校)、分校74校の計111校であった。村田高校は6月26日に設立が認可され、7月8日に開校したのである。

### ② 卒業生の進路(昭和23年~36年)

昭和31年ごろまでは、自営(主に農業)が43%を占めていた。その後、進路先が広がり、上記の期間全体では自営25%、専門職(看護婦・保母等)22%、公務員16%、数は少ないが大学進学者(東北大・都内私大等)も毎年出ていた。

## 🎓 全日制課程の開設から県立移管へ 🧑🏫 生徒・職員・町の悲願の実現

### ① 全日制課程設立の経緯 新しい学校の「開校」へ

- ① 「定時制昼間部とは変則的なカリキュラムであった。定時制は4年間であるが、3年間で授業は終了してしまい、残りの1年は何をやってもよいことになっていた」  
「でも、卒業証書だけは貰うことができなかった」(S29卒業生談)
- ② 生徒は自分たちで全日制促進運動を展開し、町の人たち(土地の所有者)も、新校地(現在の校地)の買い上げにあたっては「高等学校のために」ということで、代替地もなしに、かなりやすい価格で譲った。  
こうした機運の高まりにより
- ③ 全日制課程が認可され、昭和39年4月に全日制課程が設置された。
- ④ 職員・生徒・町当局・町民の10年にわたる夢の実現の喜びは、記念の式典が「開校式」の名で挙行されたことから窺える。  
まさに新しい学校の「開校」であったのである。

### ② 県立移管の経緯 村田高校に関わる人の努力が結実

- ① 当時は、高校が町立から県立へ移管されると、学校の格が上がり、卒業時の就職に有利になった。他の県立高に対する生徒の劣等感もなくなる。町としては学校運営の費用を県に負担してもらいたい。(町の財政を圧迫していた)
- ② 町長を委員長、PTA・教育振興会・同窓会役員を委員とする県立移管促進期成同盟が結成され、県教委に対して活発な請願活動に入る。当時の校長、職員・生徒、保護者達はグラウンド整地など献身的な奉仕活動を行った。
- ③ こうした本校に関係する全ての人々の継続した努力により
- ④ 昭和40年12月23日の県議会において県立移管が認められ、昭和41年4月1日、正式に村田高校は県立となる。

## 🏫 総合学科の誕生(平成7年(1993)4月) 「資格のとれる総合学科」へ

- ① 平成5年9月の職員会議で「4学科を発展させる形で統合し、総合学科に改変する」方針が確認される。
- ② 村田高校は、各系列で「資格のとれる総合学科」への道を選んだ。こうした村田高校の方向性は、後年、全国の総合学科の指標となった。
- ③ 校内に総合学科準備委員会が発足し、1年間に34回もの会議を重ね、「教員が主体となって創られた最初の総合学科」を目指していくことになる。
- ④ 平成7年3月、総合学科第1期生となる生徒を対象とした新入生予備登校が、2日間をかけて行われた。
- ⑤ 平成9年度は総合学科の完成年度となり、2・3年次の共通履修が始まる(2時間は1~3年次共通履修)。
- ⑥ 平成9年度には進学者が倍増した。進学率の上昇は、社会状況の変化を背景とするものだが、総合学科の設置によって対応することが可能になった。

総合学科開設時  
6系列(4クラス)  
社会情勢の変化  
4系列(3クラス)

国際教養系列:「普通科の文系」を想定した系列  
 自然環境系列:「普通科の理系」を想定した系列  
 社会福祉系列:介護福祉士及びホームヘルパー1級が取得できる系列  
 コンピュータ・ビジネス系列:「商業科」を想定した系列  
 メカニカル・テクノロジー系列:3級自動車整備士の取得を目標とする系列  
 メカトロニクス系列:電子機械科を前身とする系列

- 言語・自然科学系列
- 介護福祉系列
- 商業実践系列
- 機械・自動車系列



# 総合学科 事始め (ことはじめ)



夢を育んだ空間

第1期生 談

第1期生として、6つの系列、新しい様々な設備の整った実施棟、そして何より思い出深いテニスコートでの時間、充実した学校生活を送ったのだと、今改めて感じています。

初めての海外への修学旅行。韓国の地に触れ、たくさんの貴重な体験をしたのを覚えています。ハングル語や歌を覚え、韓国の高校生と緊張しながら交流したこと、様々な歴史があり、複雑な気持ちになった独立記念館。目で見、聞いて、肌で感じたこと全てが初めてのことでした。

今の私があるのも1年次の時に将来のことを一人ひとりが真剣に考え、ライフプランとして文章にし、勇気を持って発表したことが大きなきっかけになっています。私はあのとき、教師になりたいという夢を持っていました。そして今、私は教員として生徒たちと充実した日々を送っています。大好きなテニスも、今は指導する立場です。

興味・関心のあることを専門に学習できる環境。学校生活で数え切れないほど多くのことを吸収しました。卒業アルバムを開くたびに、不思議なことに笑顔になり、懐かしい気持ちにしてくれます。

今のままじゃダメだ

第2期生 談

あの頃の私は、何も考えず、ただ時間だけが通り過ぎていきました。目標もなく、友達と他愛もない話をし、眠気に勝てず授業中に居眠りをしたり、勉強にだるさを感じサボってしまい……。現実離れした夢のような学校生活を送っていました。先生方が言う「そろそろ将来のことを…」なんて考えたくもありませんでした。甘えていたのですね、私は。

何をすべきかも分からず、ただ漠然と過ごしている間に、一緒に学校生活を送っていた同級生たちは3年間の高校生活を終えて先に卒業していきました。私は学校を辞めず、村田高校初の4年次生となりました。

私にとって4年次の1年間は、それまでの3年間よりもずっと大事で、意味ある1年でした。これまでの自分を振り返り、これからの自分を見つめ直すことができました。「何をしたいのか」「何をすればいいのか」一つだけ分かっていたことは「今のままじゃダメなのだ」ということでした。自分の目標を見つけよう、そのためには「絶対に卒業するのだ」と自らに誓いました。人よりも回り道をしましたが、自分でも「頑張ったな」と誇れる1年間でした。



## 「キネン日」について (内田より)



平成某年、帰宅したウチダの前に家人が立ちはだかった。「はて？」と思う間もなく「♡今日は何の日だったかな？」との言葉。「♡今日は、…確か8月25日…ああああ…」よろめき、一瞬意識が遠のく。今日は家人の誕生日ではないか！すっかり忘れていた、痛恨の失態である。ここで、平謝りすれば、大事には至らないのだと思うが、素直に「ゴメン」と謝れない自分が悲しい。悪い習慣で、開き直ってしまうのである。「♡誕生日がどうかしたのかな」「♡朝の様子から忘れていたようだったので、今日の夕食は私が好きなものだけを準備しました」「♡それは良いことだ。もともと日本人には誕生日を祝う習慣などなかったからな。誕生会など、ちんけな欧米文化の物まねに過ぎない」「♡ケーキとかはどうなるの?」「♡バースデーケーキなるものが一般化したのも菓子屋の陰謀か、西洋かぶれの結果に過ぎない。日本人ならケーキなどより、君も好きな「おはぎ」だろう。明日、「おはぎ」を買ってこよう」「♡あっそう」「♡かつての日本人は、年明けに皆で歳を一つ重ねたのだ。誕生日を祝う習慣はそろそろ止めた方がいいんじゃないかな」「♡それじゃ、何で天皇誕生日が祝日なの?」「♡戦後の米国による占領政策の影響に違いない」「♡でも、戦前も天皇の誕生日は「天長節」とかいう祝日じゃなかったらしら」「♡それは、明治政府が悪しき西洋の習慣を無理やり取り入れたからなのだよ」「♡もう、面倒なことは言わないの。とにかく、誕生日をケーキで祝うのは日本の文化なの、今は!」これ以上、抗弁する気力はなかった。要するに家人の誕生日を忘れていた私が悪いのである。深く頭を垂れるしかない。「♡ごめんなさい」「♡まあいいでしょう」ウチダの誕生日騒動であった。(8.25事件)

個人的な記念日の忘却は、さておく。平成の天皇は、即位10年の折に忘れる事のできない日付として、6/23 8/6 8/9 8/15 をあげている。6/23(慰霊の日)は、「何の日かな?」と生徒に聞いてみたが、誰も答えられなかった。何も村高生に限ったことではないが、とても残念なことである。これでは、「沖縄の苦悩」は、やはり他人事になってしまうのであろう。日本人として忘れてはいけない日(祈念日)は、深く心に刻んでいなければならない。戦争で命を落とし、新たな誕生日を迎えることのできなかつた人たちを想えば、我々の誕生日など……。

